

STESSA2024 参加報告

1. はじめに

2024年6月30日～7月5日イタリア・ミラノにて開催されたWCEE2024 (18th World Conference on Earthquake Engineering)に引き続き、2024年7月8～7月10日の3日間、イタリア・サレルノにて開催されたSTESSA 2024(The 11th International Conference on the Behaviour of Steel Structures in Seismic Areas)に参加させていただいた(写真1)。筆者からはSTESSAについて報告する。STESSAは鋼構造分野に特化した国際会議であり、1994年に第1回が開催され、今回が11回目の開催となる。会場には、開催国であるイタリアをはじめとするヨーロッパ各国からだけでなく、北米やアジアなど幅広い地域から多くの研究者や企業が集まった。筆者の参加は2022年に続く2度目であり、前回のオンライン開催と比べると、参加者どうしの議論や交流が非常に活発であった印象である。

2. 3日間の概要

筆者を含め、参加者の多くはサレルノの中でも観光客で賑わう海岸沿いに宿泊し、学会1日目、朝8:00のシャトルバスに乗り込んで、会場であるサレルノ大学へと向かった。3日間の学会では、東京工業大学名誉教授 和田章先生のKeynote lecture "Resilience Design of Long-Life Cities"(写真2)を含む計5題のKeynote lectureと195題の口頭発表、企業によるプレゼンや展示が企画されていた。口頭発表は、材料、接合部、骨組み、高層建築物、冷間成形材、制振デバイス、ハイブリッド構造、疲労性能、改修、規準などのテーマに分類され、4つの教室にて並行して進められた。質疑応答が非常に活発であり、予定されていた時間を超えるセッ



写真1 参加者一同



写真2 和田先生のKeynote lecture

ションも多々みられた。筆者も鋼構造建築物における非構造外壁の地震時挙動に関する研究発表を行った。非構造部材は特に地域性が強く、(筆者のボキャブラリーの乏しさもあり)海外の研究者に十分に理解してもらえないのではないかと懸念していたが、興味を持ってくださった方もいて大変嬉しく思うと同時に、思うように説明することができなかったことを非常に口惜しく感じた。

各セッションの合間に設けられたCoffee breakやLunch break(屋外の開放的なスペースで頂いた(写真3))、Ice cream breakを通して、日本からの参加者だけでなく他国からの参加者とも交流できた。また、1日の終わりにはWelcome ceremony concertやWelcome partyなどが企画されていた。これらのイベントには、学会の運営に携わったサレルノ大学の学生や学会参加者の同伴者も多く参加しており、研究だけでなく各国の文化や過去のSTESSAの話題で盛り上がった。



写真3 Lunch break

学会2日目の夜のGala dinnerでは、発表賞などの授与式が盛大に行われ、宿泊先に戻るころには日付をとうに越えていた(ちなみに、翌朝は8:00にシャトルバスがお迎えに来る予定である)。充実したイベントや交流した方々のお陰で、発表の場で感じた苦い思いも忘れてしまうほどであった。

3. おわりに

今回のSTESSA2026(The 12th International Conference on the Behaviour of Steel Structures in Seismic Areas)は、2026年9月7日～9月9日インドにて開催予定である。次の参加に向けて、英語力や研究力を培っていきたい。

最後に、今回の学会参加にあたり、国内外の多くの方にサポートして頂き、大変有意義かつ刺激的な経験ができた。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

黒澤 未来(東京科学大学)